

令和2年10月9日

松阪市議会
西村 友志 議長

海住 恒幸

自治体問題研究所主催
「ズーム研修 新型コロナウイルスから区民の命を守る
保坂展人・世田谷区長に聴く」
研修報告書

研修会開催日時 令和2年9月27日（日）
午前10時～

記

概要

社会的PCR検査の実施など、全国的に注目を集めた「世田谷方式」を推し進めた保坂展人・東京都世田谷区長を講師にしたズーム研修が開催されましたので自宅のパソコンを使って受講しました。

世田谷区は、東京都内では新宿区に次いで感染者が多く、区内の感染者は都内の感染者の1割を占めていました。感染原因を見ると区外の仕事先や飲食先で感染し家庭内での感染拡大が目立ち、40代の人にその傾向が顕著だったということです。その後、7月ごろより、高齢者施設や障害者施設、児童施設でクラスターも見られるようになりました。

こうした中、区では有識者を交えた新型コロナウイルス対策本部会議を開き、PCR検査の拡充、病床の確保などについて議論を交わす中で、高齢者施設については施設職員らを対象とした社会的なPCR検査の実施や、コロナ病床の確保（空床）をした医療機関に対する区独自の補助などの支援策を展開していったとのこと。そのことによって、介護や障害者施設、保育園、幼稚園、医療機関の維持につないだのも特徴的です。

PCR検査にかんしては、検査を受けてから結果が出るまでに3日かかるようでは陽性者の4割が重症化してしまうという大阪市の事例があったことからPCR検査を受けたら結果が出る前に、CT画像を撮り、画像診断で入院してもらう措置もとったこと。PCR検査のハードルを低くし、午前10時に診察をすれば午後2時にはPCR検査を受けられるようにするなど迅速化を図ったということです。

このように区の状況に対応するため、矢継ぎ早に手を打った様子が報告されました。

所感

コロナ渦の中で私たちも広域的な移動ができない中、ズーム会議を活用することで最も注目を集める世田谷区長の出演が可能となりました。同区は東京都内でも新宿区に次いで感染者数が第2位、30～40代の勤労世代が仕事先で感染し家庭で感染を広げる一方、高齢者等の福祉施設でクラスターが見られるなど、最悪の状況が広がる中での基礎的自治体の危機管理能力と対応をつかさどるトップマネジメントについて直接話を聴くことができたのは意義深いことでした。

コロナ対応のニュースでは、政府ないしは知事、政令市の発信が多く、しかもその多くは緊急事態宣言に絡むこと、飲食店の時間短縮、外出自粛に関するものがほとんどで市区の取り組みについて詳細を伝えることはほとんどないと思っています。そんな中、国、都道府県が言うのを待つのではなく、独自に施策を打ち出していく世田谷区長の姿勢は地方自治のあるべき姿勢を学ぶという点においても意味の大きいことでした。